

投擲機で絵具入り水風船を投げよう！

教科・場面

図工

授業・実践のねらい

- ・投てき機を使って、投げる活動に参加する。
- ・引っ張る力でバネが縮む力を感じて放つ。

対象の児童・生徒

児童

小学部：水風船を投げるのが難しい児童

※授業場面では、小学部の児童が活用しましたが、「持ち手部分を持つ → バギーごと後ろへ下がる」で動作するので、中学部や高等部の生徒も活用できると思います。

また水風船に限らず、重くなければ、用途に応じて違うものも投擲できます。

教材・教具



工夫したところ

- ・持ち手をつけて引っ張る（持ってバギーごと後ろへ下がっていく）ことで、投げるができます。
- ・バネの伸び縮みで、力加減が調整できます。

授業展開・教材の使い方・実践の内容など

使い方

【事前準備】 カットアウトテーブルなど高い位置に設置し動かないように万力などで固定。

【手順】

- ① 万が一、真下に落ちて大丈夫なようにビニールやタオル等でガードする。
- ② 水風船をセット（大きすぎると飛びにくい）
- ③ 持ち手をもって、引っ張る → 放つ

※授業場面では、水風船を活用しましたが、小さなカラーボールなんかもそこそこ距離を飛ばすことができます。用途によって、いろいろ使い道があるかと思います。

授業・実践を通じた児童生徒の変容

・水風船の感触を楽しんだり、教師と投げるなども体験した後に、投げる・放つなどが難しい児童も一緒に的をめぐらして、投擲機を活用して水風船を放つことができた。ツールがあることによって、活動・参加を促すことができた。